

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2375900277		
法人名	医療法人 社団福祉会		
事業所名	グループホーム高須		
所在地	愛知県西尾市一色町赤羽北荒子18番地		
自己評価作成日	平成28年11月21日	評価結果市町村受理日	平成29年3月8日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

医療法人の運営する施設という特徴を活かし、入居者の急な体調の変化等にも医療との迅速な連携を取ることで入居者、家族に安心して頂けるよう努めています。また、職員は常にその方ひとり一人の支援や対応について考えホームでの生活が穏やかに送れるよう取り組んでいます。  
入居者もスタッフも常に笑顔で過せる環境空間を創造し笑い声が絶えない施設を目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2375900277-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2375900277-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年12月16日		

ホームは様々な診療科を備えた医療機関の関連事業所でもあるため、医療面に関する支援が充実しており、利用者の健康状態に合わせた受診支援が行われていることで、利用者、家族にとって、ホームで安心して過ごすことができる対応が行われている。ホーム建物についても、建物の1階にデイサービスが併設されていることで、デイサービスでボランティアの方による行事が行われる際には、ホームからも利用者が参加し、交流の機会をつくっている。ホーム独自の活動も充実しており、1ユニットのホームである利点も活かしながら、利用者一人ひとりが主体的に生活することができるように、職員間で利用者に関する細かな意向等の検討が行われている。また、ホーム内は天井が高くゆったりとした空間が確保されており、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような配慮も行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	スタッフ全員で作成した理念を事務所や厨房に掲示し、共有に努めている。また、実践できているか振り返りも行っている。	独自の介護理念をつくっており、キッチンの場合に掲示することで、職員が日常的に理念を意識する取り組みが行われている。また、ホームでは職員に毎年度の個人目標をつくってもらうことで、理念を意識し、実践につなげる取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の商店で日常の買い物をしている。法人が行う地域との交流機会や地区の防災訓練などへ参加している。	地域の方との交流については、法人全体で行われており、ホームも含めて地域の方との交流につなげている。また、ホームでも地域の中学生の受け入れやボランティアの方との交流が行われている。	地域の方に向けたカフェの取り組みが始められており、ホームも協力したりする等、地域の方との交流と関係が深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	小中学生の職場体験や地域の看護学校生のボランティア体験などを通じての発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	参加した家族や民生委員からの意見をサービス向上に活かしている。	会議の際には、法人の院長が参加することがあり、地域の方や行政の方との情報交換を行いながら、ホームの運営につなげる取り組みが行われている。また、家族の参加も得られており、交流の機会につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	月1回の介護相談員(民生委員)との交流を深め運営推進会議にて活動報告と意見交換を行い協力関係を築いている。	市内の医療機関との連絡会を通じた情報交換や地域ケア会議への参加等の機会がつけられている。また、連絡会では管理者が部会長を務める協力が行われている。また、市の介護相談員の訪問が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について定期研修を行って具体的な行為を理解し身体拘束の無いケアに取り組んでいる。	ホームは建物の2階に開設されているが、ホーム出入口に施錠を行っておらず、職員間での見守りが行われている。また、法人の専門の委員会に管理者も参加している他、ホームでも勉強会の機会がつけられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修を行い、虐待要因にいたる職員のストレスなども理解し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	今年度、施設研修計画になし。管理者は外部の研修に参加。活用には支援はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約等については重要事項説明書を用いて説明し不明な点など何うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議への参加家族から聞き取るなど運営に反映させている。また、ご家族の来訪時などには積極的に声を掛け日常会話の中からご意見、ご要望をすくい上げることができるよう心掛けている。	ホームで行われている行事の際には、家族の参加を呼びかけており、交流の機会をつくっている。家族からの要望等は法人でも対応しており、ホームの運営につなげている。また、2か月毎の便りの他にも、利用者毎の便りの作成が行われている。	家族との交流の機会が増えるように、ホームでも様々な取り組みが行われているが、家族の状況もあり難しい現状もある。ホームで可能な働きかけを継続されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティング等で意見や提案を聞いたり、年間3回の個別面談を実施し職員からの意見を得ている。	毎月のホーム職員間での会議が行われており、常勤職員中心の体制であるため、運営につながる話し合いが行われている。また、管理者による職員への個別面談の機会がつけられており、職員からの意見等の把握に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人目標の設定から年間3回の個別面談の実施をして目標の達成度や取組状況を把握している。その際に個別の意見等もすくい上げ職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	国家資格の取得への協力や認知症実践者研修などを計画的に進め職員のスキルアップを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	GU連絡協議会や地域の部会の活動を通じ、研修会や交流会に積極的に参加する事でネットワーク作りや意見交換を行いサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	不安が少しでも取り除けるよう要望をお聴きし、情報が得られるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族との関係を多く持ち要望等をお聴きし、良い関係が持てるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族の要望等をお聞きし最適な方法を考えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	感謝されたり、労いの言葉を頂いたり利用者様から教えられることも多い。共に支えあう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られた時に必ず声を掛け、本人からの要望等についての対応について共に検討するなど協力関係を築いていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の希望に出来るだけ応えられるよう努めている。友達や知人がいつでも気楽に来てもらえる温かい雰囲気作りに努めている。	利用者により、入居前からの関係の方がホームに訪問する等、利用者との交流が行われている。利用者の馴染みの場所への外出も行われており、ホームでも支援可能な取り組みが行われている。また、家族とも交流が続くよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が支え合えるよう役割を持ってもらっている。トラブルは最小限にとどまるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院退所後の経過の情報、方向性等を関係機関を通じて把握したり、ご家族の相談にも応じている。利用終了されたご家族からお野菜を頂くなど関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人ひとりに希望や意向を伺うようにしその人らしく暮せるよう検討している。	常勤職員中心の体制であるため、利用者に関する情報交換が日常的に行われており、一人ひとりの意向等の反映につなげている。また、ホーム近隣のレストランに出かけ、利用者との茶話会を行っており、一人ひとりと会話を交わす取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	1人ひとりの表情や行動を観察し生活環境の不安がないよう状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1人ひとりに合った残存機能を生かせるようお手伝いをお願いしたり現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族との話し合いやカンファレンスで意見を出し合い総合的に意見を反映できるように介護計画を作成している。	介護計画は3か月で見直しが行われており、モニタリングについては、職員の協力も得ながら、3か月での実施が行われている。また、職員間で介護計画の内容を確認しながら、記録用紙への記載への反映につなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は毎日の申し送りや報告書を通じて情報共有し見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人希望での歯科往診の調整や訪問理容のサービスなどを取り入れ希望に添った柔軟な対応に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の商店への買出しや外食に出掛けるなど地域での暮らしを楽しめるよう支援している。図書館などの利用も検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	併設法人医療機関への受診。定期受診に加え本人の希望や状態変化に対応している。	母体の医療機関には、様々な診療科が開設されているため、利用者の健康チェックと身体状態等に合わせた受診支援が行われている。また、法人の関連の訪問看護による健康チェックも行われており、利用者の急変時にも柔軟な対応が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週の訪問看護師の訪問でその都度状態様子を伝え相談し適切な医療、看護が受けられるよう連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設法人医療機関との連携、情報交換を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に重度化した場合の希望を確認し、意向に添った対応が出来るよう努めている。基本的には併設法人医療機関への移行で行っている。	新たに説明書を作成したこともあり、ホームの方針や対応等に関する話し合いが行われている。身体状態等に合わせ、ホーム関連の医療機関や老健等への移行が行われており、ホーム単独での看取り支援を想定していないこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修は実施しているが実践訓練について不十分なため今年度中にAED講習を計画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災と震災に向け訓練を実施も法人との連携体制の訓練が今後の課題である。	年2回行われている避難訓練の際には、夜間を想定したり、通報装置の確認等も行われている。訓練の際には、消防署の協力が得られている他にも、地域の災害訓練への参加も行われている。また、備蓄品については、法人全体で確保されている。	ホームは建物の2階にあるため、1階のデイサービスとの連携にも期待したい。また、水の備蓄品等、ホームでも可能な対応に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	厨房に張り紙などで注意喚起して決して利用者を傷つけないよう、言葉かけにも注意し対応している。	ホームの介護理念に利用者への尊重を掲げており、利用者一人ひとりに配慮した対応を行うように、職員による言葉遣い等の注意喚起等につなげている。また、職員の接遇に関する研修会については、法人全体で取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者に寄り添い、話しをする事で思いや希望が伝えられるようにし本人の意思にしっかり耳を傾けて対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースや生活リズムを大切に、業務優先にならないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	いつも同じ服にならないように心掛けたり本人に選択してもらっているがその場合、同じ様な服装になってしまう事がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜切り、お盆並べ等のお手伝いを依頼し一緒に準備してもらっている。	メニューについては、利用者の好みや嗜好にも配慮しながら職員により考えており、買い物も行われている。利用者も調理や片付け等、できることに参加している。また、食事の際には、職員も一緒に食事を行っており、会話を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分確保について摂取量が少ない方にはゼリーにして摂ってもらうなど工夫し水分量もチェックするようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時と毎食後の口腔ケアを実践している。歯科医師からの口腔ケアチェックを受けている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	入所時にリハビリパンツであった方を布パンツに変更した方もいる。排泄チェック表もあり1人ひとりの間隔も把握している。	日常的に職員間で利用者の排泄に関する情報交換を行っており、A3サイズの記録用紙の活用等、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。また、医療面での連携にも取り組んでおり、利用者により、排泄状態が改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動等での活動はなかなか難しいが飲食物での工夫は検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	業務の関係で時間帯は限られているがその日は入れなかった方を翌日にするなど変更して対応している。	入浴については、利用者は1日おきの午後5時の時間を中心に入浴しているが、希望等に合わせた回数の対応も可能である。また、利用者の身体状態に合わせた、職員複数での対応も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	1人ひとりの様子を観ながら気持ちよく眠れるよう照明や温度調節にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	体調の変化等に薬の副作用が無い確認するなど状態変化に注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	季節を感じられる行事や外出の実施やお誕生日会等、楽しみごとが提供できるよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	なるべく戸外に出掛けられるよう本人の希望に添った外出の実施や外出行事で家族や民生委員の協力をいただき支援している。	ホームから国道を渡った医療機関にあるゴミ捨て場所まで、利用者と散歩を兼ねて出かけている。季節に合わせた外出行事が行われている他にも、外食の機会もつくられている。また、イチゴ狩り際には、家族の参加も得られている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望に添い一緒に買い物に出掛けたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	旧友との手紙のやり取りや電話の希望にも対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内に季節感を取り入れ、思い出の写真を等を飾っている。照明も落ち着いて過せるよう少し暗めとなっている。	ホームのリビングはゆったりとした広さが確保されてある他にも、建物の2階に開設されていることで、採光にも優れた環境でもある。また、ホームでの様子が写真で掲示されており、利用者の様子を伝える取り組みが行われている。	ホームのリビングには、広い畳みルームが設置されているが、現状、十分に活かされていない。改装工事を行う予定であるため、今後の活用に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	トラブルになったり気分が悪い思いをさせないよう事前に対応し一日が気持ちよく過せるよう居場所には気をつけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の好みの物や友達の写真等、居心地よく過せるよう努めている。	居室についてもゆったりとした広さが確保されており、車椅子の方も居室を広く活用することができる。また、利用者により、様々な持ち込みが行われており、利用者一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室前には絵や写真を掲示し分りやすくし、トイレや洗面所なども自立した生活が送れるよう工夫している。		